

Jazz Interview Vol.5

ジャズ・ギターの“ファンタジスタ” 高内春彦 (HARU)

15歳でギターを始め、大学では美術科に進み油絵・版画を専攻したHARUさん。1980年の渡米後は、ニューヨークで自己のバンド「HIKO BAND」の活動やフリーランスとして多数の著名なミュージシャンと共演し、TV番組の音楽を担当するなどその活躍振りは正に世界級！現在も自己のバンドを中心に、日々を股にかけてジャズとギターの魅力を伝えるHARUさん。自身初となる全編ギター・ソロ作品『ハル・ソロ』リリース直後に話を伺った。取材・文：加瀬正之

★『ハル・ソロ』誕生秘話★

タイトルの「ハル・ソロ」は、プロデューサーの中尾（洋一）さんから、「何か『スター・ウォーズ』の“ハン・ソロ”みたいな感じじゃない？」って言われて、「それ面白い！」ってことでしまったのね。イラストは思いっきりSFだと変だけど、それ風のデザインを持ち寄って、最終的に僕が描いたイラストとロゴを合わせて60年代のSF映画のポスターにあったような感じに仕上げてもらいました。僕のものでは、全編ソロっていう構想はなかったんだけど、中尾さんから打診されて、1年くらい前から具体的に煮詰めていて、去年の9月頃からニューヨークの自宅で録音し始めたんです。それで、現地でレコーディングのコーディネーターを頼んでた学ちゃん（NY在住のベニストで、HARUさんの親友でもある高橋学さん）からも、「緻密に計画してじっくり作り上げちゃうよりも、ジャズマンなんだからHARUさんが時々ステージの上で思いつきで弾いている様な雰囲気、スタジオで一回しかできないという状況で録音した方がジャズっぽくていいと思うよ」って言われて、スタジオで弾いてみたの、ね。あとは中尾さんからのアイデアで、全部ソロじゃなくて、ギター2台で僕のバックアップも僕がやるようなナンバーも入れてみました。

★HARUさんの愛娘、百音（モネ）さんがタイトルを付けたオリジナル・ナンバー「オールウェイズ・ビサイド・ユー」★

元々、去年の秋に僕の故郷の宇都宮出身のジャズマン達で作ったアルバム『宇都宮ジャズ・コレクション Vol.1 ミヤ・サバパイプス』用に書いた曲なんです。中尾さんから薦められたり、僕が今一緒にやっているヴォーカルの土岐麻子ちゃんも歌ってみたいって言ってくれたので、バンドでやる前にボサノヴァのグループだった僕一人で作った方がいいかも知れないということで今回ソロで弾いてみたんです。宇都宮は月に一回ジャズ・フェスがある街で、カケルの街・餃子の街でもある。また、茂木サウキットで「インディ300」が行われることで、HARUさんが敬愛するウェス・モンゴメリーの故郷でもあり、「インディ500」で有名なインディアナポリスとは姉妹都市だそうです！

★ニューヨークのセントラル・パーク動物園で思いついた「ズー・ロック」って「ファン・キー・ズー」★

「ズー・ロック」は適当に作っちゃって、これはどんな感じかなって思っただけで、決まった形のコードを弾いただけで出来るような、誰でも弾けちゃうような曲を作ってみようと思ったの。インフュゼーション（即興）は一発だから何でもありなんだけどね。セントラルパークにはよく行くんで、その時にボーッと考えて、ZOO（動物園）にLOCKする（鍵をかける）のを見て、「ズー・ロック」になったんですよ（笑）。最初はこの曲だけやる予定だったんだけど、僕のアシスタントの子が「ストラトでリズム弾いている時みたいなファンキーなヤツをやって下さい」って言うので、「ファンキー」を「ファン・キー」（KEY=鍵）にかけて、「ファン・キー・ズー」ってアンサー・ソングにしました。これはニューヨークにまたま置いてあったオペレーションのギターで弾いたんだけど、リユート（14~18世紀にヨーロッパで広く用いられた撥弦楽器）っぽい音が出て面白いうってことになって、ラインを録らずにマイクだけで録ってみました。



★ウェス・モンゴメリーの演奏で有名「彼女の顔に慣れたきた」★

正直、一番悩んだ曲かもしれないですね。この曲はいろんな人がやっているし、ウェスのアレンジが確立されていて、ウェスを超えることは不可能なんだけど、でも解釈は無限にあるわけだからね。僕も原曲を知っているし、ウェスと違うヴァージョンで演奏するには、まずはアレンジよりも歌詞から解釈しようと思って、映画のシーンを思い出して、自分でも歌いながら毎日歌詞を見ましたね。それで、ウェスのアイデアをベースにして自分の弾き方が出来たら、録音してもいい曲かなあと考えたの。自宅で演奏したもので、もっと完璧なものがあったんだけど、学ちゃんも中尾さんも「やっぱりジャズマンとして即興にやった方がいいよ」っていうことで、普段僕が弾いているようなぶっきらぼうでストレートな感じで、隙間があっても構わないと思って、録音しっぱなしで修正も何もしていないんですよ。ウェスベースではあるけど全然違うもの。ウェスへの解答でもあるし、凄く僕自身の勉強にもりましたね。

★HARUさんが娘さん達と一緒に見ていた『トイ・ストーリー2』からのナンバー「トエン・シー・ラヴド・ミー」★

あの人が捨てられちゃうシーンは何度見てもホロッと来ちゃうよね。人形い曲したく、クラシックみたいに良く出ているんだけど、弾くのは一番難しかった曲だね。ジャズでは取り上げられてなかったんだけど、バート・メセニーなんかがやっちゃいそうだな（笑）。なんて思っているだけでも、誰かにやれる前にやっちゃうって思ったの（笑）。曲の良さを生かしながら、シンプルな感じの方がいいって思ったし、大変だったけど弾いておいて良かった。

★HARUさんの思い入れの深いナンバーで、ウェイン・ショーターの名盤『ネイティブ・ダンサー』にも収録されたミルトン・ナシメントの「ミラクル・オブ・ザ・フィッシュ」★

この曲は元々好きだったんだけど、色々複雑な思いがあるんですよ。ウェイン・ショーターの亡くなった奥さんのアナ・マリア（1996年7月17日に起きたバリ行きTWA800便の墜落事故で亡くなったが、彼女と一番最後に話したのがHARUさんだったそう…）のポルトガルの親戚がブラジルに住んでいてね。そこでナシメントのおかあさんが孤児院をやっていて、彼もそこで育ったんだけど、アナ・マリアもその孤児院の知り合いだったらしくて、ウェインとナシメントを引き合わせて出来たのが『ネイティブ・ダンサー』だったの。一度ウェインに、「自分のアルバムの中で一番好きなのは何か？」って聞いたことがあって、最新のアルバムなのは当然なんだけど、「強いて挙げれば、自分にとって重要な作品『ネイティブ・ダンサー』が一番好きだ」って言ってたんだよね。だから、ずっとなんていうか、こんな曲をソロで出来たら凄いだろうなあと考えて、自分でも研究しながら弾いてみたんだよね。ソロには向かない曲なんだけど、自分としてのプレゼンテーションであってショーケースでもあり、チャレンジだったんですよ。

≪『ハル・ソロ』はじっくり長い時間かけて完成していく予定とのこと、ソロの演奏は「STB138 ミヤ・サバパイプス」(新宿有明)と後に計画中の「現代ギター・ホール」以外ではやらないそうです。≫

★ハルヒさん憧れのうさぎのジャズ・ギタリスト★

たくさんいるけどあえて3人に絞ると、ウェス・モンゴメリー、ジム・ホール、ジョージ・ベンソン。この3人は僕のスタイルの基本で、ファンキーな部分をジョージ・ベンソン。ハーモニーをジム・ホール。全体的にウェスから影響を受けているけど、決して彼等と同じそのまんまのスタイルで弾いているわけではないのね。ジョージ・ベンソンとも親しくなっている話したんだけど、自分の真似をしちゃダメよなことは好まない人だから、一緒に弾いても綺麗な言い方ではないんだけど、自分のスタイルで弾くという意味で「OWN・シフト (Own Shift) でプレイしてよ」って言うんだよね (笑)。ジム・ホールとは、僕がジョー・ジョーンズ Jr. と一緒にやっている頃に何回か会って、「ギターを教えて下さい」って頼んだんだけど、「ジョー・ジョーンズ Jr. と一緒にやっているなら、教えることなんて思うよ」って断られたの。それで「ワンステージ5曲プレイするとして、全曲ブルースを弾けるか?」って聞かれて、「もしそれができるなら、私が教えることは何もないよ」ってね。でも、その意味はよく分かりましたね。ウェスに関しては、テロが起きる前の2001年の8月頃に、スタンテン・アイランドにある「マンドリン・プラザース」(ヴァンテージ・ギターの店の)の社長のスタンから、「ウェスの(一番有名な)ボディにハートのマークが付いた本物のギターがあるよ!」って電話があって、そのギターは火事で焼失したことになるんだけど、実際はボヤで塗装が燃えた程度で済んで、「ギブソンのカスタム・ショップで全部修理して楽器のオークションに出品されることになったから、そこでデモンストレーションをやってくれないか?」って頼まれたの。だけど、「そんなの弾いたら、頭がおかしくなっちゃうから弾けません」って断ったんだけど、僕のかみさんも「そんなの2度と弾いてチャンスだから、行って来なよ!」って言うてくれて、ちゃんとカマに収めて来るように言われたの。でも、日本に帰って来てはじめて写真撮るのを忘れたことに気付いたんだよね (笑)。そのくらい頭がボートしちゃうって、誰かに悲しめちゃったみたいになっちゃってね (笑)。でも、フレットもそのままで鋭角的に減っていたりして、ウェスがどうい風に弾いていたのがよく分かったし、やっぱりいい人にはいいギターが行くんだなあって思ったね。あんないいギターは今まで弾いたことなかったし、何か触っただけで教わったような気がしましたよね。

★ジャコ・パストリアスとウッドベース〜ジャコとの思い出★

僕が最初にジャコがウッド・ベースを弾くのを見たのは、55BARでベースの河原秀夫さんと一緒にやっていた時で、ジャコがたまたま遊びに来て「お願いだからちょっと弾かせてくれ。乱暴なことはいないから」って言うんで弾かせてあげたら、めちゃくちゃ良かった! それで、その時ドラムを叩いていたジェフ・アンドリュース (b) の相棒のカーク・ドリスコールが、ジャコの後に55BARに自分のスタジオにあるウッドベースを持って来て、エレクトリック・ベースにジェフが入った2ベースで、ジャコがウッドベースに疲れたらジェフのエレキと交代して、僕とカーク・ドリスコールの4人で一回録音したことがあったの。その時は、「オール・ザ・シングス・ユー・アー」とかスタンダードをやったんだけど、そのテープは今も紛失したままなんだよね…。それと、スタジオ録音もあって、ジャコのデビュー盤に入った16人のストリングス・チームに、ジャコのピアノ、ドラム、リズム・マシンにベース。それとジャコがギターも弾いているので、僕はマイク・スターンとギターで参加したんだけど、ギターのパワーカーコードはジャコが弾いているのね。ジャコが5歳の時に作曲したというピアノ演奏も入っているんだけど、ジャコのピアノって他にはないだろうからね。僕はコーラスで歌も歌ったんだけど、それも未だにスタジオの倉庫の中でお蔵入りになっているんだよね…。

初の完全ギター・ソロ・アルバム

『ハル・ソロ』 高内春彦

HARUさんのギターの魅力が満載!
P.J.L./ポリスター: MTXJ-1092
¥2,800 (tax in)
Now On Sale!



Photo: Haru Takauchi Trio live @ 55BAR in New York (1993)

★ HARUさんの夢★

まず、ギターがもっと上手くなること。この年齢になって、やっとスタート地点に立てた感じがするのね。僕としては友達だし、レベルは違うんだけど、マイク・スターンとかハイラム・ブロックとかと同じレベルのステージに立ちたいし、想像のつく音楽じゃなくて、これからの音楽をやりたいです。勿論、日本のバンドでもやりたいし、幹夫 (HARUさんの盟友でドラマーの高橋幹夫さん) となんかは、心で通じているというか、天才の音楽ではないんだけど、天才の人達の真似もできるし、もっと人間レベルで友達としかできない面白い遊びも出来るんだよね。あと、前に『プロトスターズ』というアルバムを作った時に、ウェイン・ショーターに共演を頼んだら、「何でこんな年寄りに頼むんだい? もう俺の名前なんか必要じゃないだろ? マイルスだって俺だって自分より年上のベテランに頼んだことはない、若者の生き血を吸った方がいいよ。お前ももっとマイルス級のことを考えればいいんだよ」って言われたの (笑)。マイルスなんかとはレベルも世界も違うんだけど、ウェインの言う通りだと思っし、凄く嬉しかった。僕は自分の音楽に完成なんてないと思っているし、「昨日よりは今日の音楽」を続けたいのね。有名になりたいとかじゃなくて、いろんな場所で演奏してたくさんの人に聴いてもらいたいし、ギターを極めるというよりもギターを使った音楽を深く追求して、願わくばそれを発表する機会がもっと増えれば嬉しいですね。

HARU SOLO 発売記念ライブ

日時: 2006年5月15日 (月曜日)

[door open: 18:00 / show start: 20:00]

場所: STB139 スイートベジブル [http://stb139.co.jp/]

お問い合わせ: 03-5474-1395 / 住所: 東京都港区六本木 6-7-11

ニュー・アルバム『ハル・ソロ』発売を記念したスペシャル・ライブ決定!
HARUさんのソロ演奏と、前作『ジャコへの手紙』からのトリオ<香川裕史 (b)、高橋幹夫 (ds)>による演奏の2部構成で行われる予定です。
『ジャコへの手紙』のレコ発コンサートは、HARUさんの交通事故による怪我で実現しなかった為、ソロ演奏と共に今回は絶対に見逃さない!

伝説のジャズ・ギター・サミット

55BAR SUMMIT



『55BAR サミット』 ハイラム・ブロック、ハル (高内春彦) レニー・スターン、マイク・スターン

55BARでの貴重なライブ音源を収録!
P.J.L./ポリスター: MTXJ-1092
¥2,800 (tax in)
Now On Sale!